



女性リーダー育成講座「女性の声で 地域を変えよう！」

# 中高年齢女性シングルの貧困

---

Smile😊シニアシングلز

香田 美代子 (坂戸市)

鈴木 多美江 (上尾市)

長谷部 千恵美 (東松山市)

安田 和代 (所沢市)

# 調査研究の背景



単身女性世帯や母子世帯には以前からの問題

## 女性の貧困

標準世帯枠にはまらない女性たちを困窮させる  
現行の社会保障制度

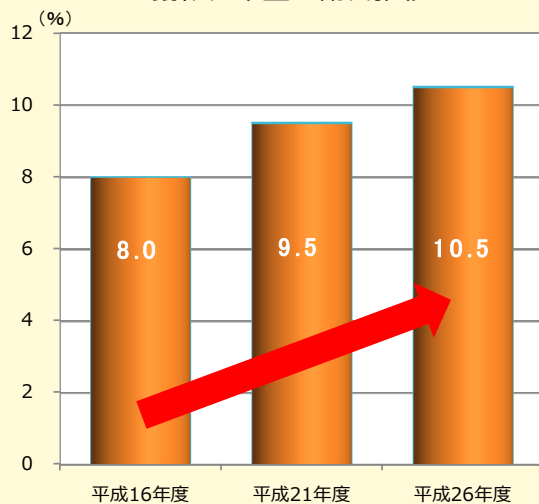
男女の賃金格差、解消されず

女性の非正規雇用の増加

# 女性世帯主が増えています。

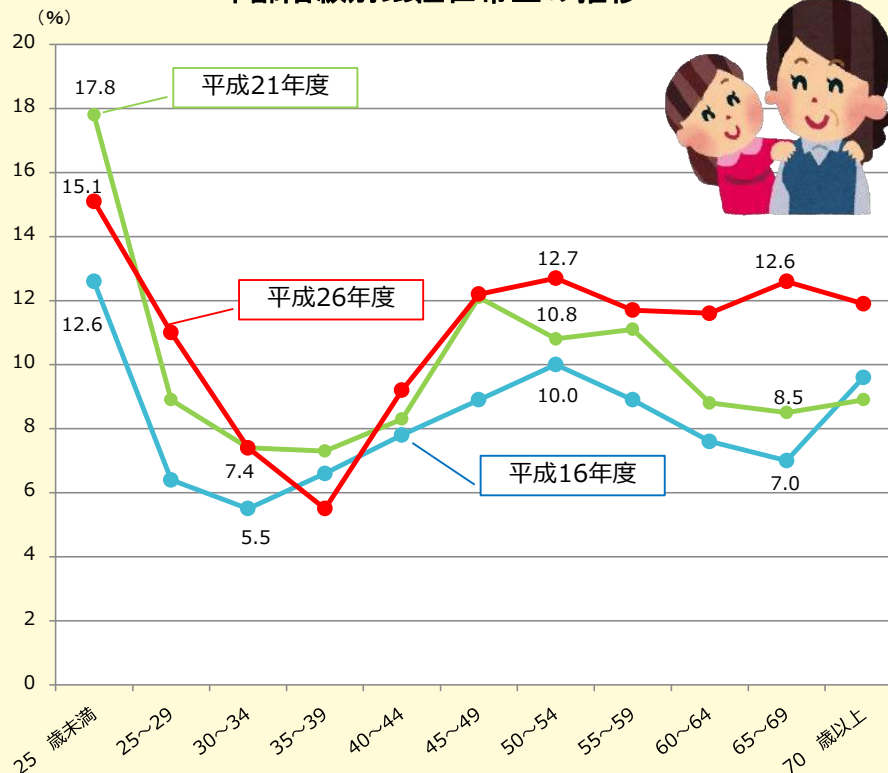
主たる担い手に占める女性の役割  
(2人以上・勤労世帯の女性世帯主)

女性世帯主の割合推移



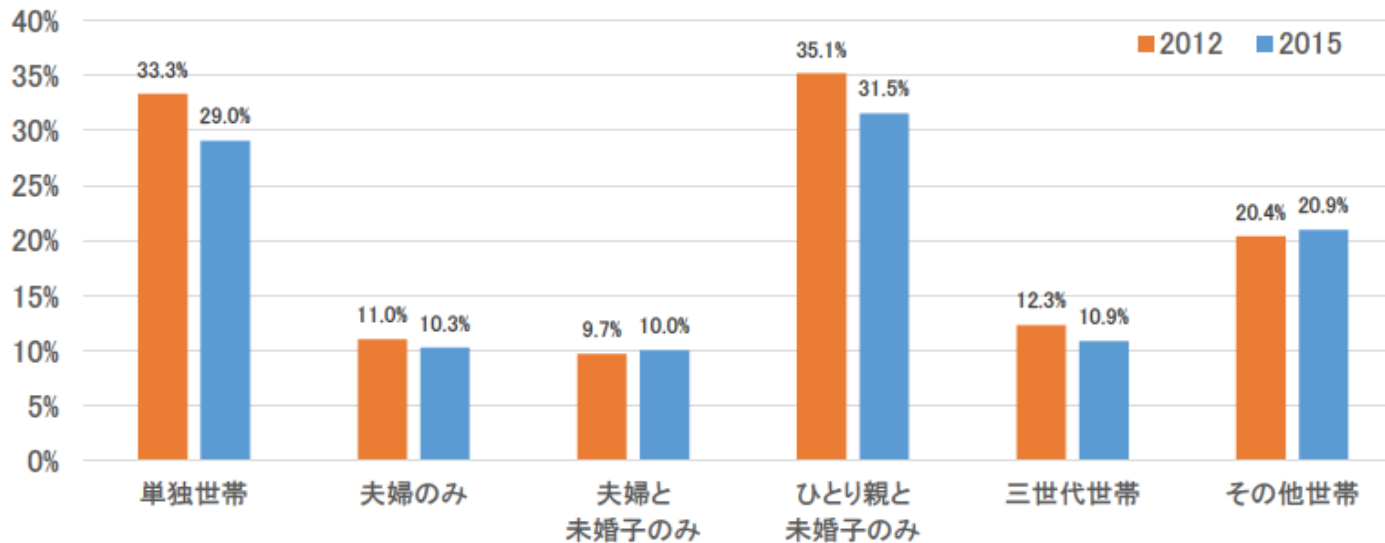
出典：総務省「全国消費実態調査」(平成16年度・21年度・26年度)

年齢階級別女性世帯主の推移

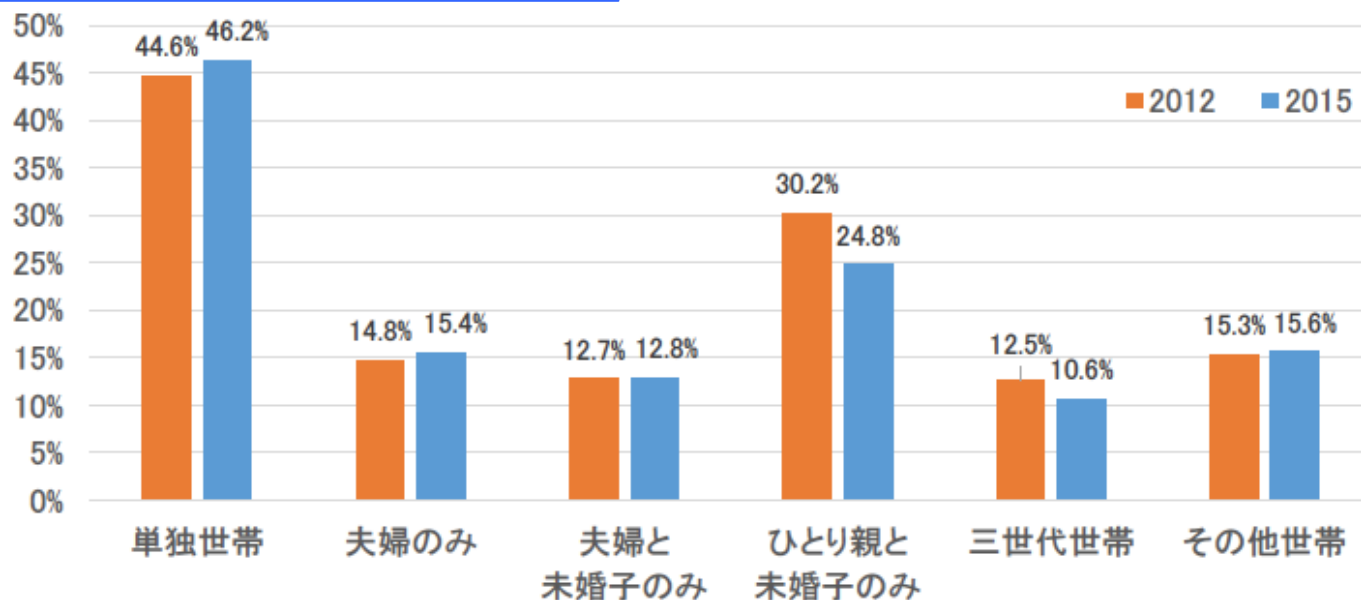


未婚・離婚の増加で増えているのが、女性の世帯主です。こうした女性たちは、これまでの夫に扶養されることを前提とした成人女性のモデルとは異なり **自ら世帯の主たる生計の担い手**となっています。不安定な雇用が中心の女性たちにとって **経済基盤を安定させることは、大きな課題**となっています。

## 女性(20～64歳)の貧困率:世帯構造別



## 女性(65歳以上)の貧困率:世帯構造別



# 女性の貧困



女性世帯主の増加

社会の高齢化



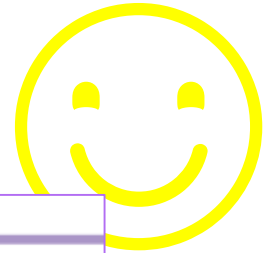
中高年齢女性シングルスの貧困

# 調査・研究の目的



- ★中高年齢シングル女性の現状の可視化
- ★ニーズに対応した支援策、施策につなげるためのアプローチを考える。

# 先行アンケート調査



## 中高年齢シングル女性の 生活状況 アンケート 調査報告書

530名の声に耳を澄ませば



もくじ:

- P.2 ■はじめに—調査を実施した背景と目的
- P.3 中高年齢シングル女性の生活状況アンケート調査結果
- P.20 中高年齢期のシングルマザーの実情
- P.22 独身女性の実情
- P.23 65歳以上のシングル女性の実情
- P.24 ■座談会：シニアシングルたちの現実と夢
- P.27 ■おわりに—調査結果からみえるもの…政策要望

製作発行： わくわくシニアシングلز  
協力： 湯澤直美(立教大学コミュニティ福祉学部教授)  
発行： 2017年5月13日



わくわくシニアシングلز —ひとりとして、つながれば知恵と力と笑みがわく—

代表 大矢さよ子 (社会保険労務士・1級FP技能士・NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーむ元理事)  
<http://seniorsingles.webnode.jp/> <https://www.facebook.com/wakuwakuseniorsingles/>

- ◆問合せ E-mail: [wakusenior@yahoo.co.jp](mailto:wakusenior@yahoo.co.jp)
- ◆カンパ：個人10千円、団体105千円～
- ◆Tel: 090-6016-9356 Fax: 0422-54-0932
- ◆振込先：郵便振替 お待ちしております。
- ◆年会費：1000円
- ◆口座番号 00130-3-603350
- (ご入会は上記宛問合せください)
- ◆口座名称 わくわくシニアシングلز

## 非正規職シングル女性の 社会的支援に向けた ニーズ調査報告書



2016年3月

公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会  
一般財団法人 大阪市男女共同参画のまち創生協会  
公立大学法人 福岡女子大学 野依智子



# 中高年齢シングル女性の生活状況アンケート調査

## 調査目的

概ね45歳以上のシングル女性の生活実態を調査し、中高年齢のシングル女性が、どのような生活上の問題をかかえ、どのような支援を必要としているかを明らかにし、その解決の方策を探る。

## アンケートの実施方法

メンバーの身近な人への手渡し、メールやネット等での告知。



## Smileシニアシングルのアンケート調査



### 調査対象

概ね45歳以上のシングルで暮らす女性

- ① 単身(独身)で生活している方(未婚・非婚・離別・死別後単身な方)
- ② 母子家庭の方、または母子家庭であった方(未婚・非婚・離別・死別とも)

\* 子ども、親、祖父母と同居している場合も含む

\* 子ども等の扶養に入っている場合も含む

\* 事実婚やパートナーと暮らしている方は対象としない

## Smileシニアシングルのアンケート調査



### 設問

#### 全38問

設問に関しては、先行アンケート調査、主に「わくわくシニアシングルのアンケート調査」のアンケート調査を、「今後に向けて、シングル女性が安心して暮らすために必要なこと」については、(公財)横浜市男女共同参画推進協会のアンケートを参考にさせていただきました。

**実施期間:** 2018年12月～2019年2月末日

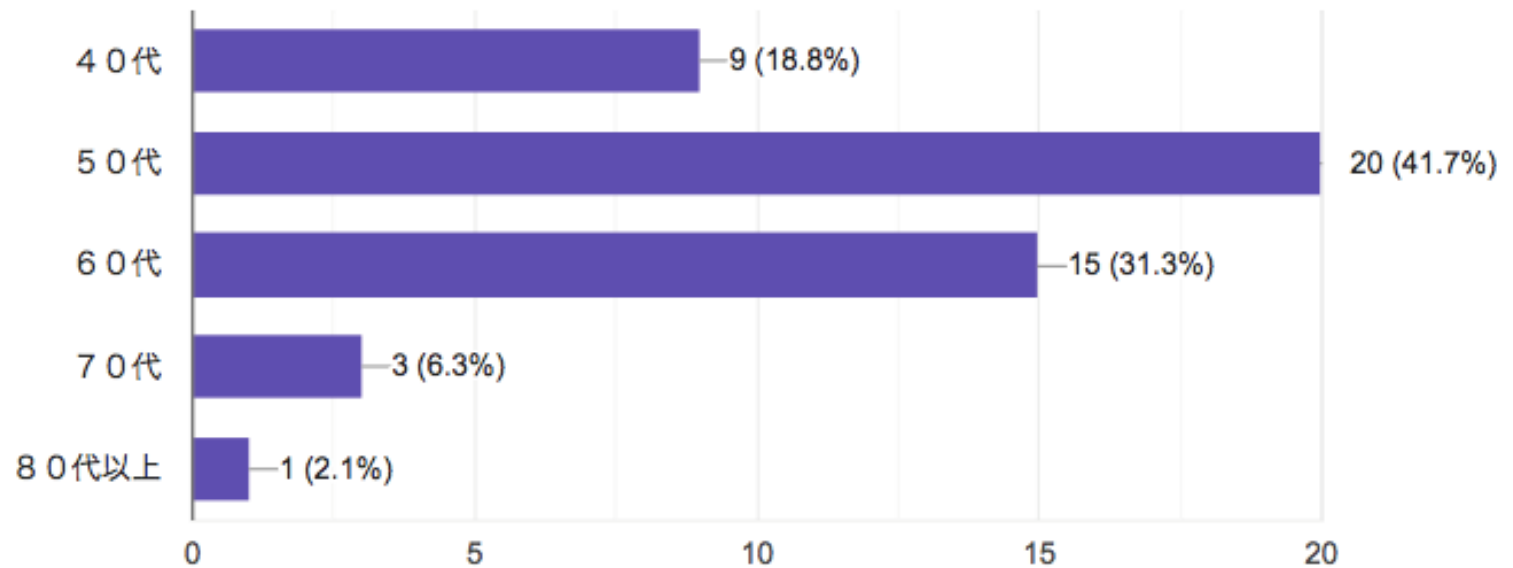
**回答者数:** 48名

埼玉県在住39名(さいたま市、上尾市、坂戸市、所沢市など)、  
東京都5名、神奈川県1名、茨城県1名、無記入2名



## 問1 あなたの年齢をおたずねします。

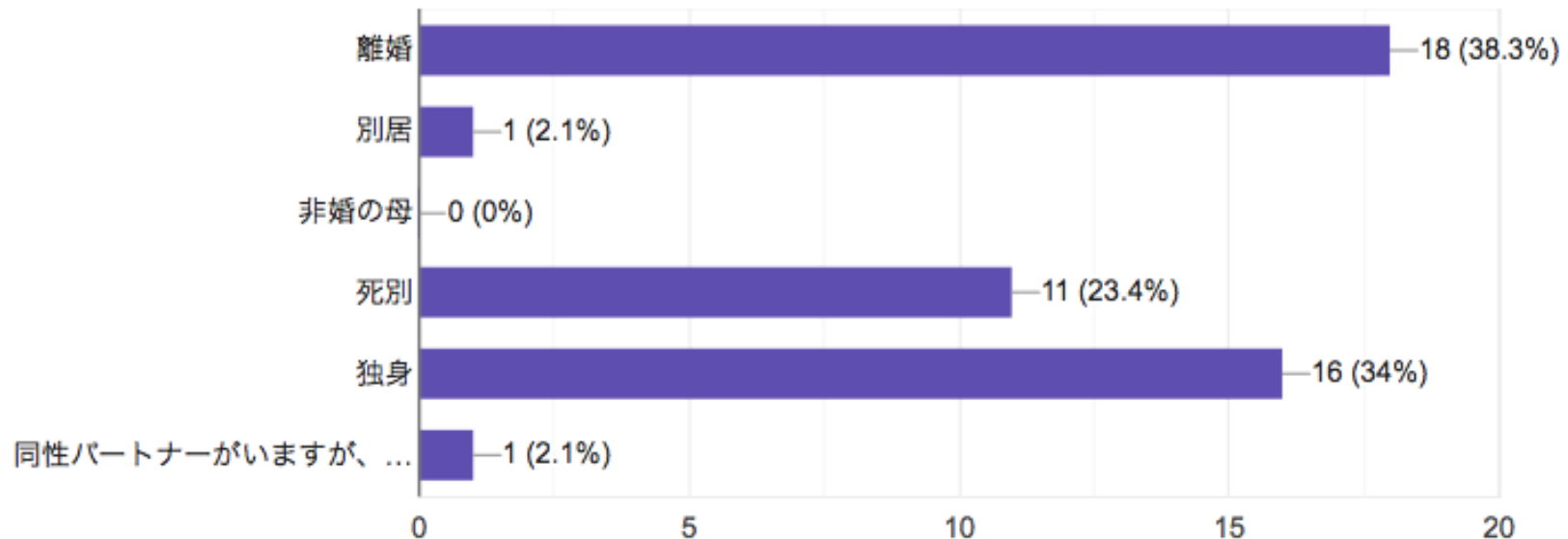
48件の回答





## 問4 あなたがシングルであるご事情について、お聞きします。(1つにチェックして下さい)

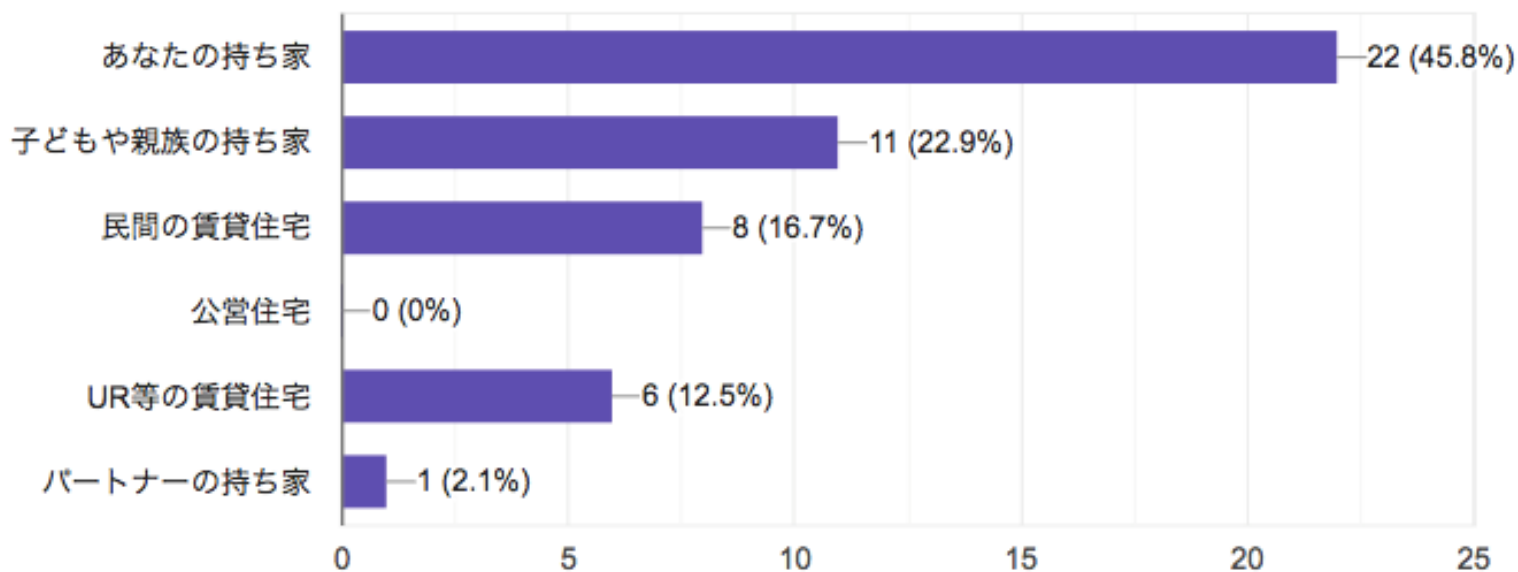
47件の回答





## 問7 現在のお住まいは次のうちどれ？

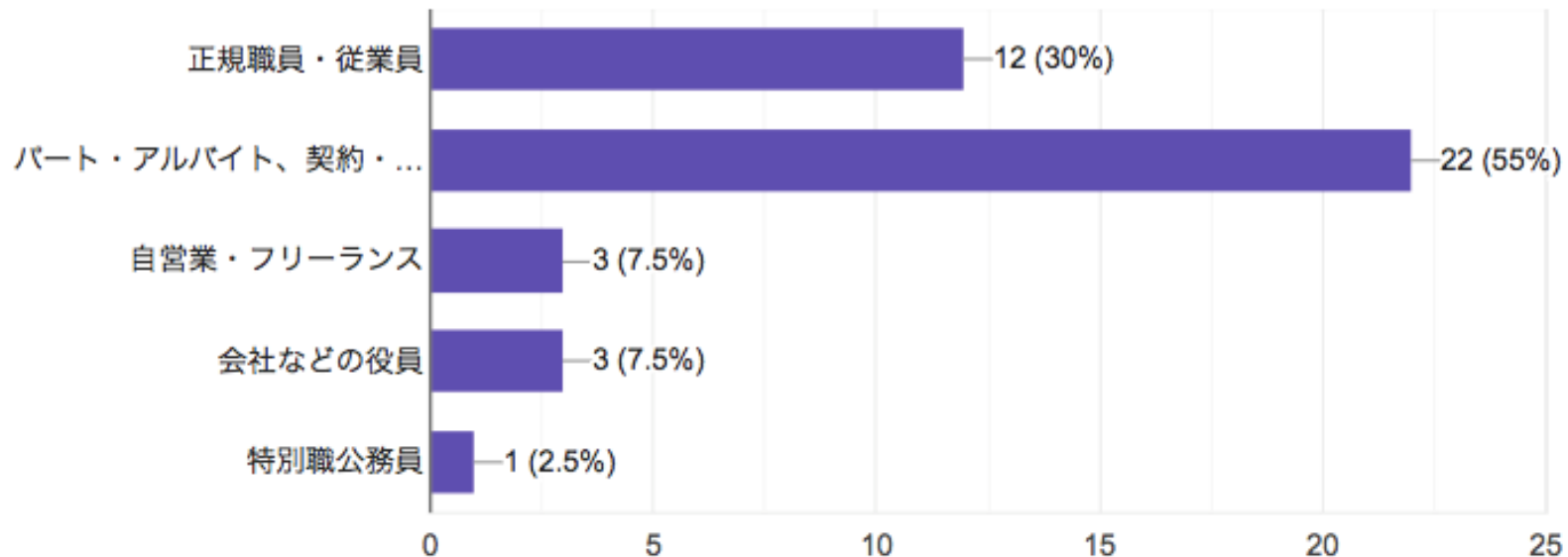
48件の回答





問13 現在働いている方に：おもな就労先の雇用形態を教えてください。（1つに○）

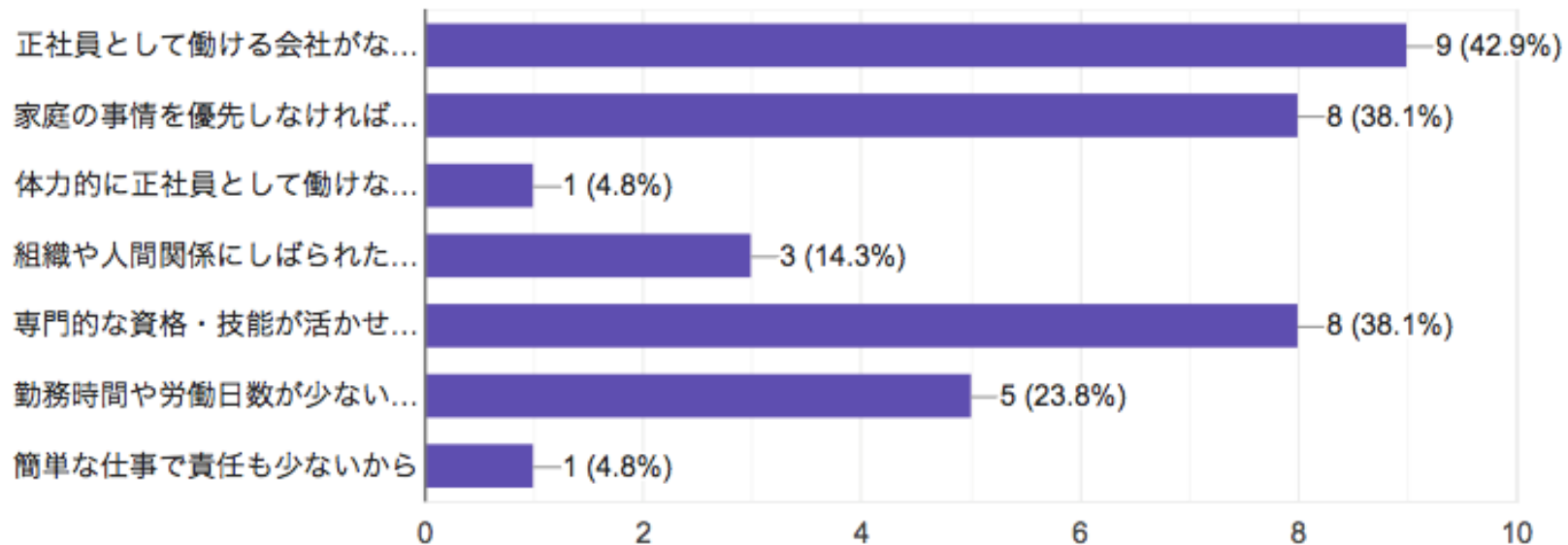
40 件の回答





問18 あなたが非正規職についている理由はなんですか。あてはまるものを、いくつでもお答えください。

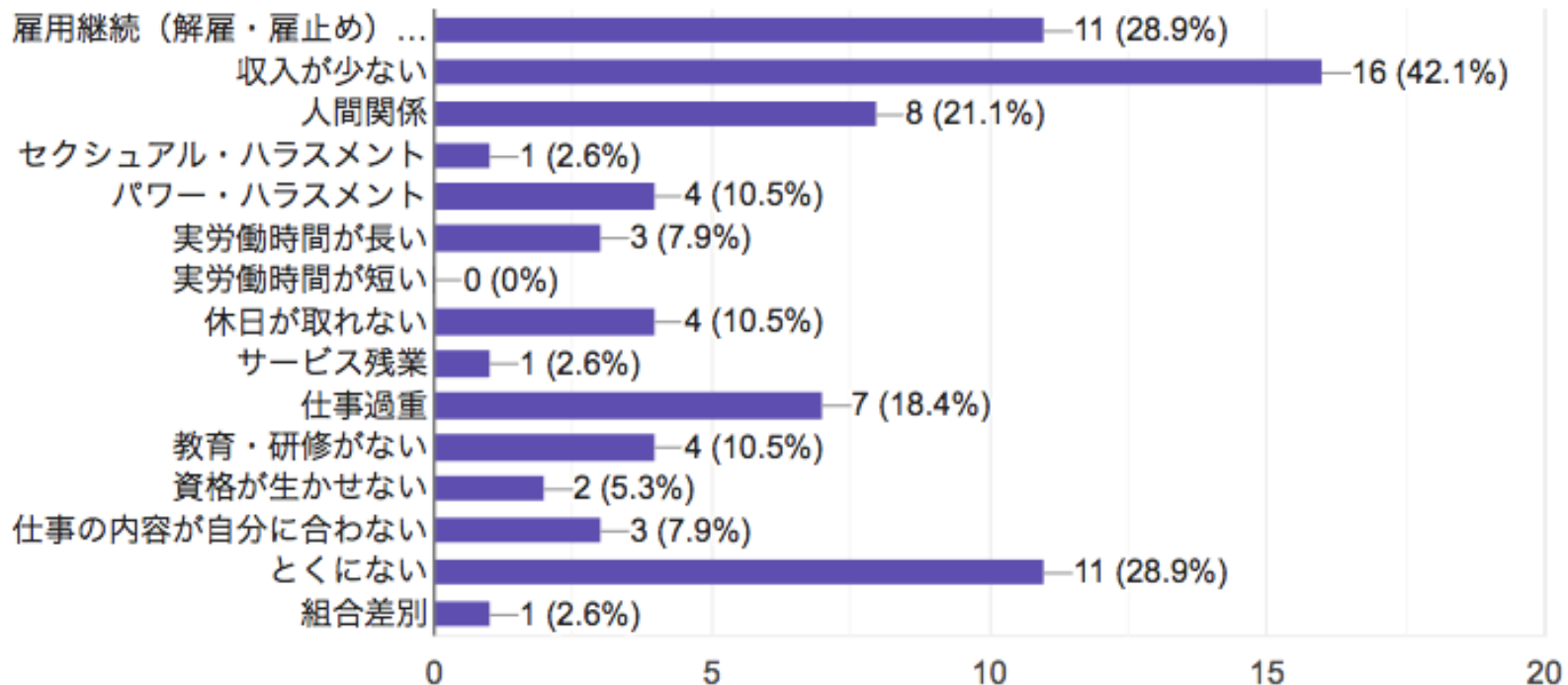
21 件の回答





問19 あなたが現在感じている、仕事に関する悩みや不安はなんですか。あてはまるものを、いくつでもお答えください。

38 件の回答



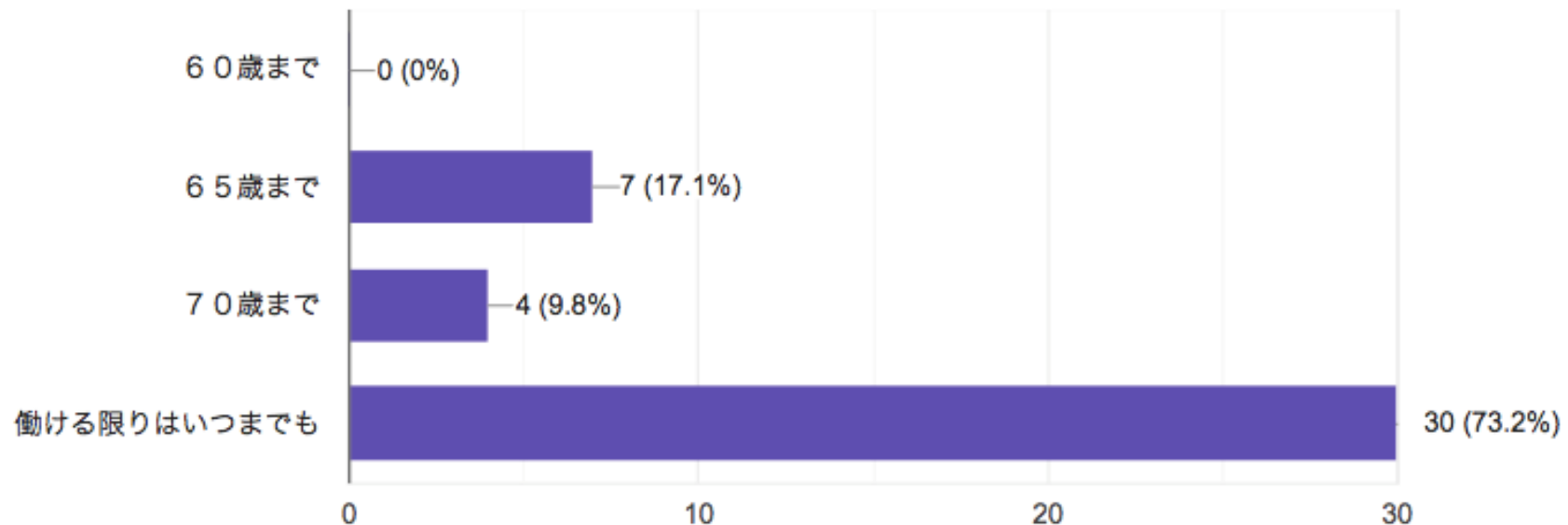
問20 とくに悩んだり、不安に感じていることはどのようなことですか。(自由記述)





問21 現在働いている方に：今後の生活を考えると、いつまで働かないといけないと思いますか？（1つに○）

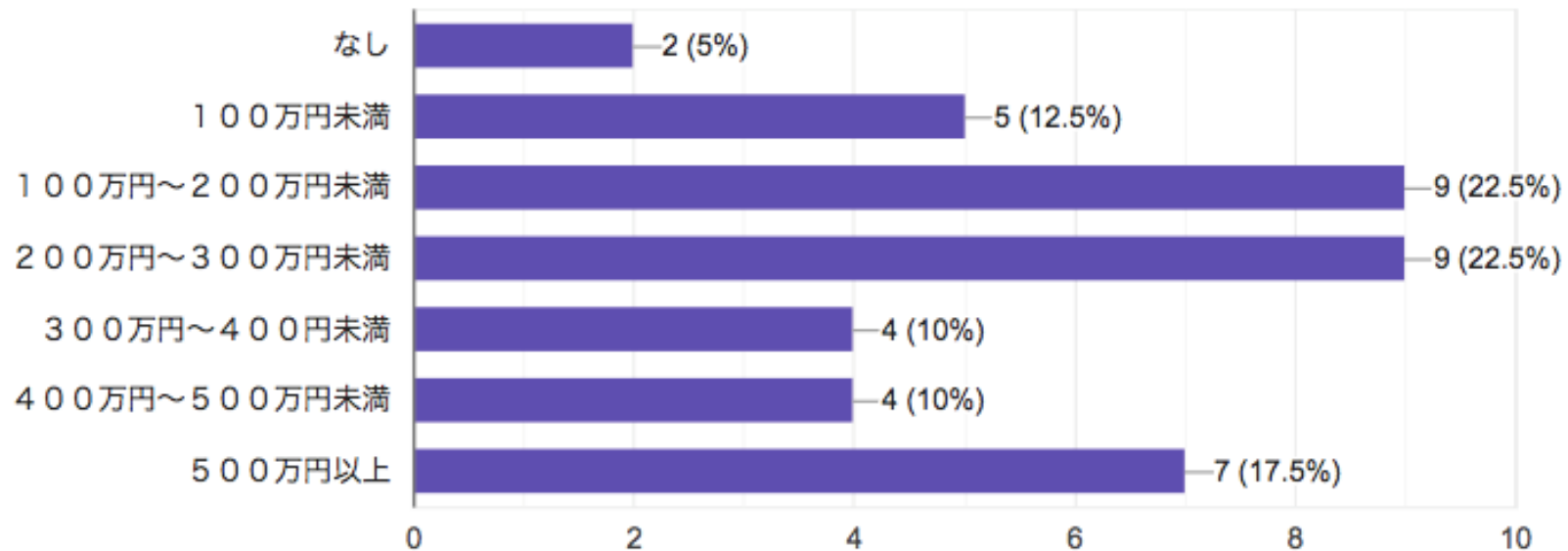
41件の回答





問23 給与収入・事業収入についてお聞きします。あなたの昨年年度の就労収入（税込み）を教えてください。（公的年金・生活保護費は除きます）（1つに○）

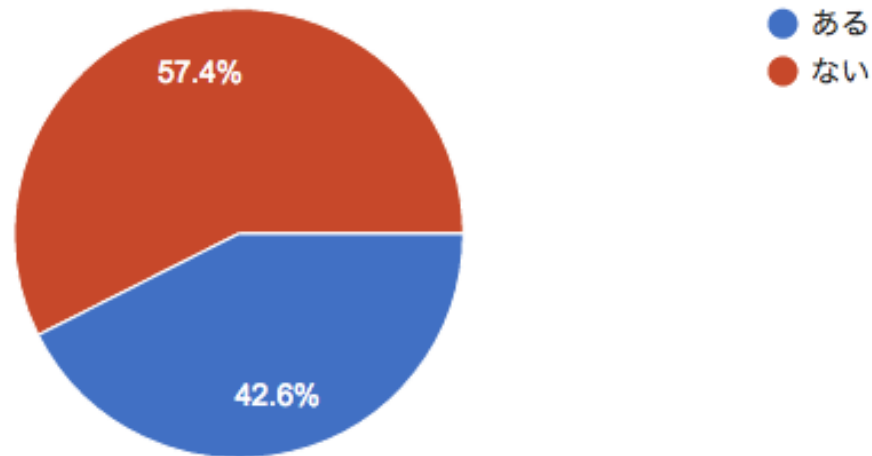
40件の回答





問26 公的年金について：20歳から現在までに、国民年金保険料の免除や猶予を受けた期間、あるいは未納の期間がありますか。（1つに○）

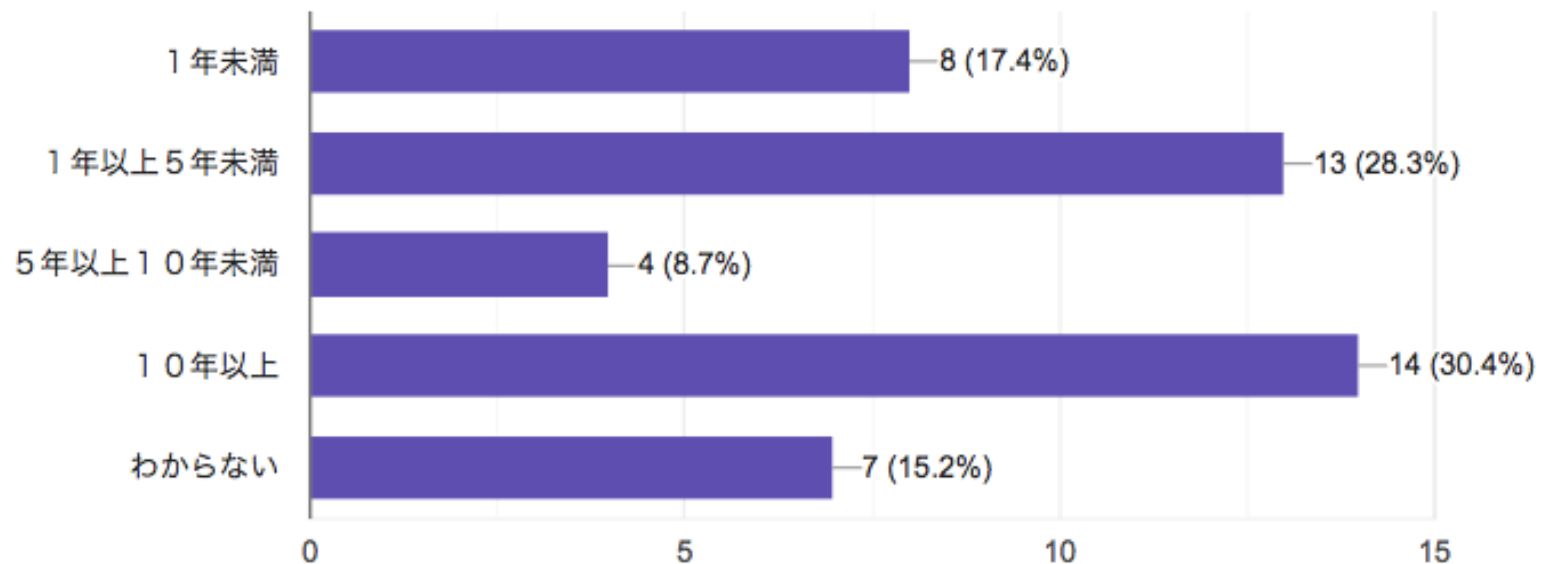
47 件の回答





問30 あなたは就労収入を除いて、貯蓄や年金などだけで暮らすとしたら、今の生活ができる期間は、あとどれくらいだと思いますか。（1つに○）

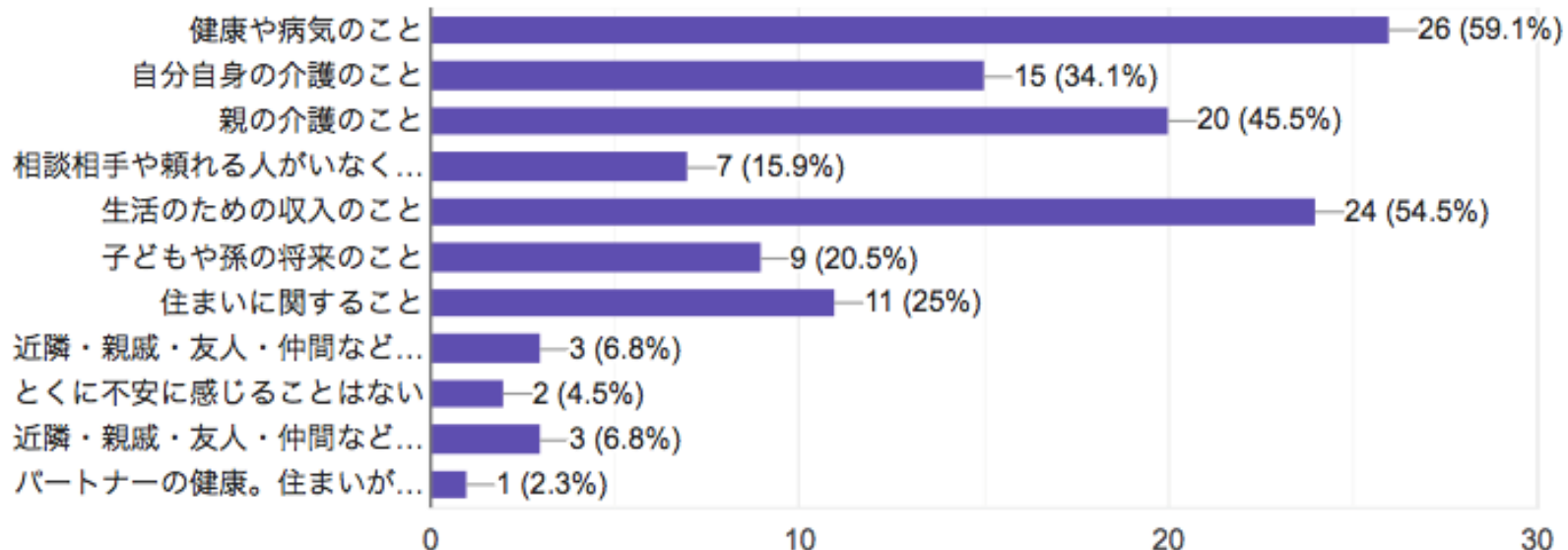
46 件の回答





### 問33 あなたは、自分の日常生活全般についてどのような不安を感じていますか。（複数回答可）

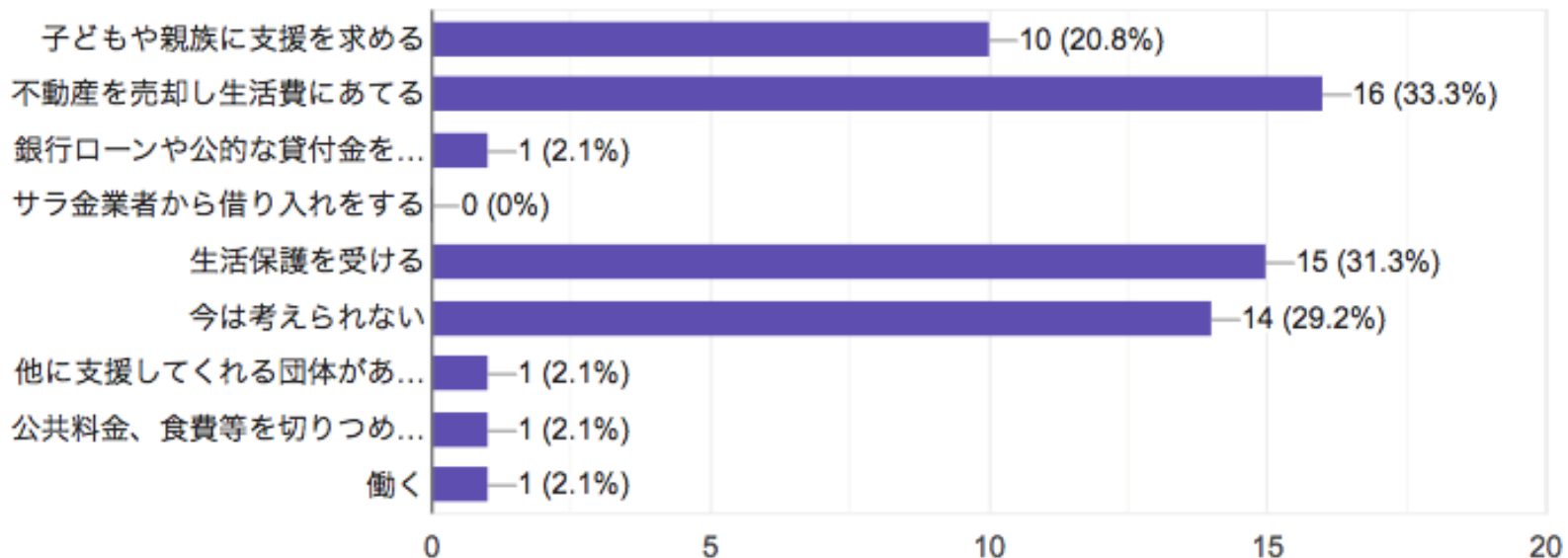
44 件の回答





問34 もし、年金や預金を取り崩しても生活がたちゆかなくなった場合、あなたはどのように対処しますか。（複数回答可）

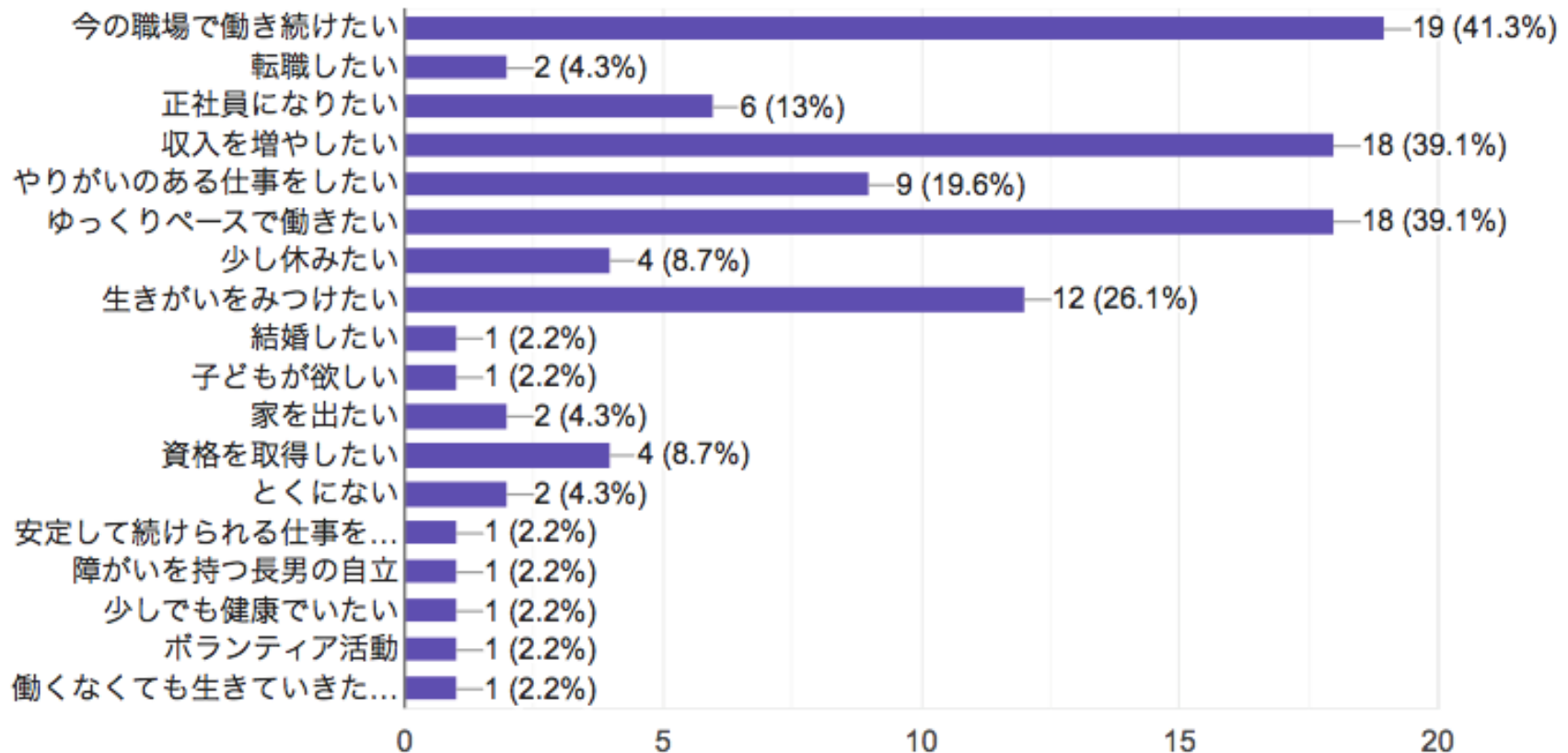
48 件の回答





問36あなたが今、望んでいることやめざしたいことはなんですか。あてはまるものを、3つまでお答えください。

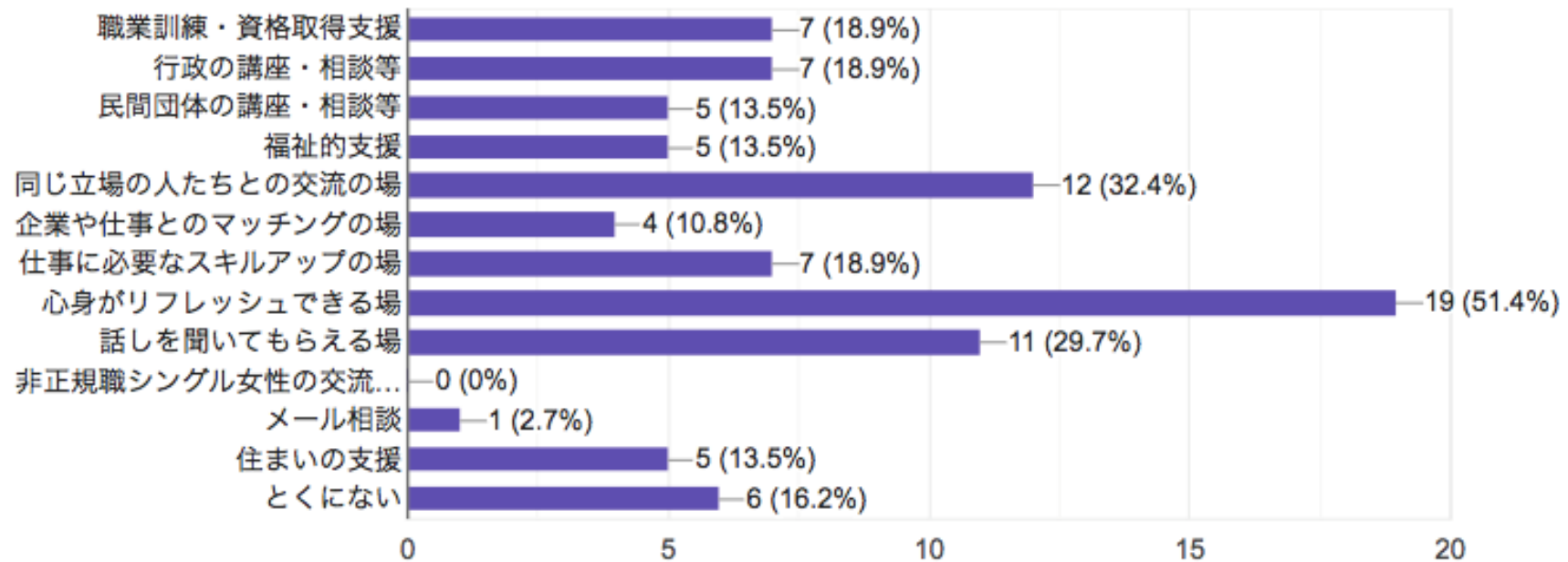
46 件の回答





問37 今後、利用してみたいサポートや参加してみたい場は、ありますか。いくつでもお答えください。

37 件の回答







## 問38 社会の中でこんなサポートがあったらうれしい、というようなご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。（600字以内）

20件の回答

公共施設でなく、気軽にコミュニケーションを自由に自主的に参加できる交流の場所があればいいと思う。体力に応じた職業ができる限り長く継続できるサポート。

知的障害がある子どもが、自分が死んだあとあるいは判断能力がなくなった時、しっかり生活できるようサポートしてほしい。自分のことより、子どものことが気になります。

図書館（分室でも可）やプール他の軽い運動ができる施設が徒歩20分位で行くことが出来ると嬉しい。

シングル女性に限らず、①同じ仕事については、雇用形態に関わらず、同金額の賃金②性別・年齢に関係なく、対象となる仕事能力がある人を雇用すること等、働き方が変わっていくことを望みます。先進諸国に比べて日本は遅れています。

健康維持のための体操、筋力維持（転倒予防等を目的としたもの）や認知症予防等の運動を居住地域で開催し、若い世代から参加できるような場があったらいいと思います。高齢者向けはあっても、健康に対する関心が深まってくる40,50代の人や、働きながら気軽に参加できる場がないように思います。

高齢者の一人暮らしでは、賃貸住宅を貸してもらいにくい状況があるようだが、低い家賃で、バリアフリー環境の住居が借りられるような環境を整えることを空家対策とともに考えてほしいです。

健康上の理由から運転免許を返上しました。県北部の田舎なので車を運転できないと非常に不便。同居の息子夫婦はいますが仕事が忙しく、日中はひとりです。買い物や通院の際の高齢者の移動手段を支援する仕組みを作ってほしい。

兄弟や友人たちは、結婚していて私のことを理解してもらえない。

長年フリーランスで働きながらシングルで子育てもしました。国民年金を払えない時期も20年ほどあり、このままだと年金が低額で老後の生活が成り立ちません。すべての人が企業で働く、または老後は夫婦で年金生活という前提で年金制度が設計されているように感じます。一方、生活保護の条件は「貯金が少しでもあってはだめ」とか「頼れる家族がいないか問われる」など、非常に厳しいという話も聞きます。家族や子どもに負担をかけずに、しかも少しは余裕を持ちつつ暮らせるよう、ベーシックインカムの仕組みができたらどんなによいかと思います。これからがんばって老後の備えを準備していきたいと思っはいますが、持病があるので不安です。

副業的な仕事をするのになにか資格があると仕事の幅も広がると思い資格を取りたいと思ってるが資格を取るにもお金が結構かかるようで現状では難しい。資格を取るために支援なりサポートがあるといいと思う

中高年齢シングル女性に向けたイベントや居心地のいい場などがあるのかなのか、情報が発信されているのかなのか、情報を受け取れていないだけなのか、そういうことを普段、考えずに暮らしています。駆け込み寺のような機関や団体は、もっと深刻な人が頼るところ、と思っはいますので、漠然とした不安感を持っている程度では、不安感を口にする場も、頼るところもない、と孤独に陥ってしまうような気がします。交流の場や交流サイト、ハンドブックなどがあるといいなと思います。

いまは親の介護のことが心配ですが、どのようなサービスが利用可能なのか、調べるゆとりがありません。別に住んでいるため、手続き等で親の住む自治体に行くことも負担になります。病院でも家族の同行が求められるなど、家族の判断に任せられることが多い。経済的な負担はまだしも、労働の負担を求められることを心理的に重荷に感じます。サービスを利用することをもっと普通のこと、わざわざ調べなければわからないこと、ではなくしてほしい。

## 24名の方からの声

# まとめ



女性の雇用をめぐる法、制度の変遷

男女雇用機会均等法(1985年)

育児休業法(1991年)

育児休業・介護休業法(1995年)

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 (2015年)

労働者派遣法(1985年)

現状は、非正規雇用の増加  
「働ける限りはいつまでも」  
年金、住まい、将来への不安



今回の調査は、自分たちの身近な人への調査ではあったが、直視すべき現実が可視化されている。

各自治体への提言

ジェンダー統計に基づいた現状把握

シングル女性に焦点をあてた調査

ニーズに沿った支援、取組みが早急に必要

# Smile😊シニアシングلز



今後も聞き取り調査を継続し、  
当事者のニーズを掬う地域での活動



利用してみたいサーポートや参加してみたい場

- ・心身がリフレッシュできる場
- ・同じ立場の人との交流の場
- ・話を聞いてもらえる場 他